

流行ニュース：

## 急性出血熱症候群、コンゴ

2003年 2月 12日現在、Cuvette Ouest地域で合計 61例 (Mbomo地区 :7症例のうち 4名死亡、Kelle地区 : 54症例のうち 44名死亡) の急性出血熱症候群の疑い例が報告された。これらの症例はガボンの Centre International de Recherches Medicales de Franceville ( CIRMF) により調査される。

## 急性呼吸器症候群、中国

2002年 11月 16日から 2003年 2月 9日までの間に、広東省の保健局より合計 305症例 (うち 5名死亡) の急性呼吸器症候群が報告された。現在までインフルエンザウイルスの分離は陰性である。広東省の 6地区から症例が報告されている。2月の第 1週は、Foshan Heyuan Zhongshanでは報告されておらず、Guangzhou Jiangmen Shenzhenでは新しい症例の数は減少している。

今週の話題：

< ワクチン安全性の世界的状況：WHO/ UNICEF共同報告書 >

## \* 導入：

ワクチンの品質、ワクチンの管理、使用済みの注射器の処理を含むワクチン接種の全ての面で安全性を確実にし、監視することは、国家予防接種プログラムの課題の 1つである。WHOは過去 4年間、国家予防接種プログラムの全ての接種の安全性を確実にすることに次第に焦点をあててきた。これはいくつかの活動を通して達成されてきている。

1999年、予防接種安全性に関する WHO-UNICEF-UNFPA (国連人口基金) の合同声明で、2003年の終わりまでに予防接種の注射器は再使用防止 (AD) シリンジのみを使用するよう国家に呼びかけた。また良質のワクチン、AD 廃棄箱の 3つを揃えて供給するよう国家に促した。2001年に UNICEFを通して約 2億 2千万、国家の直接調達を通して追加の 4億の ADを配布した。ADの配布は 2003年の終わりまでには 15億を超えるであろう。

## \* 予防接種の安全性の指標：

予防接種の安全性の世界的状況を示すため、WHO加盟国による 2000年 -2001年のデータが分析された。そのデータと他の予防接種のデータ (スケジュール、達成範囲、その他の実施指数) が標準化された WHO Joint Reporting Formを使用し WHOと UNICEFに毎年報告された。その中に報告された指標は ( a) 国家安全注射計画を持つ国の割合、( b) ADを使用している国の割合、( c) 末端レベルまでワクチン配布と共にシャープス廃棄箱を定期的に配布している国の割合、( d) 注射針廃棄管理の方法、( e) ワクチン投与後有害反応 (AEFIs) をモニターするシステムを持つ国の割合、であった。非工業国では接種の安全性に大きな差が見られること、また Joint Reporting Formを通じてより正確なデータが入手可能であること等の理由から、ここではこれらの国についてのみ報告する。

## \* 接種の安全性の指標：

非工業国で国家安全接種計画を持つ国の割合が、2000年の 50%から 2001年の 65%に増加した。最大の増加はヨーロッパ地域でみられ ( 35% -67% )、ついでアフリカ地域 ( 44% -61% )、アメリカ地域 ( 39% -58% ) でみられた。ADを使用している国の割合は、2000年は 34%、2001年は 42%と低いままであった (図 1)。改善は 6地域のうち 3地域のアフリカ地域 (39%-59%)、西太平洋地域 (38%-48%)、アメリカ地域 (27%-36%) でみられた。AD使用の傾向は、他の 3地域ではデータ紛失のために把握が困難である。UNICEFが 2001年 1月 1日現在で配布を終了し、合同声明で使用を禁止したにもかかわらず、52%の国が未だに標準的な使い捨ての器具を使用していると報告した。

2000年では 95ヶ国のうち 58%、2001年には 124ヶ国のうち 67%が末端のレベルまで定期的なワクチン供給と共にシャープス廃棄箱の配布をしている。顕著な増加はアフリカ地域 ( 2000年 48% -2001年 78% ) とアメリカ地域 ( 64% -80% ) でみられた。残りの地域において標準の使い捨ての器具、ADの使用数は増加しているが、シャープス廃棄箱が定期的に提供されている国は増加していない。

標準の使い捨て器具、ADを使用している約 65% ( 2000年 ) と 69% ( 2001年 ) の国は、国家の方針としての焼却処分を報告し、注射針の廃棄管理を奨めた。47% ( 2000年 )、60% ( 2001年 ) の国が、それぞれの国で奨められている方法 ( 焼却するか埋めるか ) で処分していた。

安全接種計画を報告する国は増えてきているが、これらのデータは注射針の廃棄管理を含む予防接種の安全性に取り組むための計画の質を評価していない。ADとすべての新しいワクチンの入手可能性は、ワクチン予防接種世界同盟 ( GAVI ) のワクチン基金創設により高められた。GAVI ワクチン基金はまた 6,100万ドルを上回る額を投入し、注射の安全性を高めるため特別な援助を用意した。ADの使用が増加するにつれて、多くの国で滅菌されていない注射器の再利用がくい止められた。しかし ADの使用報告をする国が増加してきているにも関わらず、注射技術の変化が特に注射針の廃棄管理の点で大きな壁となり、いくつかの国では安全性が問題となったままである。これは一部の国ではワクチンと注射器が安全ボックスにより組織的に配布されていないことを示している。ほとんどの国は、奨められている注射

針の廃棄技術や方法を実行していない。WHO、UNICEF その他の援助団体は AD とその安全な廃棄の段階的な導入を推進し、各国が新しい基準に達するよう支援している。

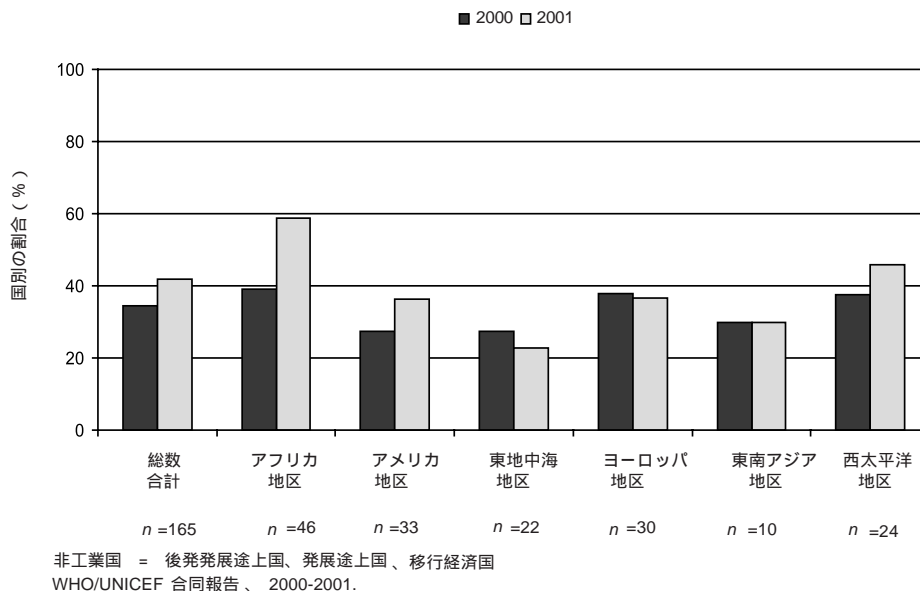
予防接種の安全性の重要な指標として、滅菌した接種を実施している国の割合を分析した。それは安全な接種に対する国の方針、計画、予算に基づきすべての保健施設で滅菌がもれなく徹底されているかを調査した。その結果 2000 年と 2001 年で滅菌された注射を実施しているのは、全体の 22%であった。これは非常に低い数字に思えるが、多くの国で安全性に不履行があると仮定してはならない。なぜなら 100%安全な注射の保障を目標にしているがこの目標が達成されないからといって、必ずしも注射器と針が再利用されているということではない。これらの国を支援していくにはより客観的なデータが必要である。

#### AEFIs のモニタリング：

AEFI のモニタリングシステムを持つ国は 2000 年に 45%、2001 年に 53%であった（表 1）。2000 年は 63 ケ国、2001 年は 38 ケ国で報告されていなかったため、完全に伸び率を反映しているわけではないが、この上昇はモニタリングシステムを確立したか、既存のシステムを機能的なレベルにまで強化したかを示している。WHO は予防接種の管理者と国家の規定する当局スタッフの訓練に投資している。さらに大規模な予防接種キャンペーンと規定のプログラムには、モニタリングシステムの確立、または強化するための技術的援助を提供している。

参照：表 1 WHO/UNICEF Joint Reporting Form に基づく指標を達成した加盟国の割合（WER 参照）

図 1：定期的予防接種で再使用防止シリンジ（AD）使用を報告している非工業国（2000-2001）



#### 流行ニュースの続報：

##### <インフルエンザ>

チェコ共和国（2003年2月1日）<sup>1</sup>：インフルエンザ様疾患の比率は、最初の集団発生が報告された前週と比べ15.5%増加した。インフルエンザB型ウイルスが分離され続け、全て学童からのものであった。大部分のウイルスは、現在のワクチン株と密接に関係していた。

フィンランド（2003年2月8日）<sup>1</sup>：インフルエンザの流行は2週間連続しており、主にB型ウイルスによるものである。集団発生は成人よりも小児の間でより深刻である。高齢者の罹患は最も少ない。

フランス（2003年2月1日）<sup>2</sup>：インフルエンザ流行は南部の3地区で1月の最終週に増加した。集団発生は主にB型に関連している。A(H1N1)型とA(H3N2)型ウイルスが散発的に分離された。

ドイツ（2003年2月1日）<sup>3</sup>：集団発生が2週間連続しており、A型とB型ウイルスの両方が分離された。

今シーズンの始めから分離されたA型ウイルスのうち、A(H3N2)型の亜類型のみが検出された。

ロシア（2003年2月1日）<sup>1</sup>：流行している都市数が7都市から10都市に増加した。A(H1N1)型、A(H3N2)型とB型が分離されたが、ほとんどはA(H3N2)型であった。A(H1N1)型、A(H3N2)型共に多くの地域で再循環した。

スイス（2003年2月1日）<sup>3</sup>：インフルエンザ様疾患の割合は23州のうち5州で流行域に達した。A(H3N2)型とB型ウイルスの両方が今シーズンの始めから分離されている。参照：<sup>1</sup>2003年、No.6、p39 <sup>2</sup>2003年、No.3、p16 <sup>3</sup>2003年、No.4、p24

（岩坪明美、佐浦隆一、法橋尚宏）